

佐土原 R C

# 週報



国際ロータリー第2730地区  
**佐土原ロータリークラブ**  
 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30  
 例会場 ホテル神宮寺 0985-73-0015

Real Happiness is Helping Others  
 ことの幸福は人助けから

1993. 5. 7 (金) 第268回例会

1. 点 鐘
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「奉仕の理想」
4. 「四つのテスト」唱和
5. 食 事
6. 会長の時間
7. 幹事報告
8. 各委員会報告
9. 5月セレモニー(註日・註議20頁)
10. 卓 話
11. 点 鐘

## 第267回例会記録 (1993. 4. 30)

**会長の時間** 岩 切 正 司  
 皆さん今日は、本日は第267回例会です。早いもので、4月も最後の日になり、私の任期も残り二ヶ月となりました。新年度の役員人事も決まり、新年度に向けてスタートの準備が整いました。ただ、今年度の残された課題が二点程あり、気になる次第です。それは、当クラブ創立5周年記念事業の事と、懸案の会員増強の事です。5周年事業の記念植樹については、今日町役場に藤堂幹事が打ち合わせに行く予定になっております。会員増強については、例会終了後にフォーラムを行いますので、全員残ってください。

食事の時間に、西都RCのビジターの方から、佐土原町の発展は着実に進んでいるとお話を聞いて、ヤルキも出て来た次第であります。残りの期間は僅かですが、頑張っていきたいと思えます。

### 幹事報告 藤 堂 孝 一

1. 5月1日に開催される会長エレクトセミナーには、会長エレクトの正岡会員とR I財団委員長の清田会員が出席されます。
2. 5月15日~16日の地区協議会への参加者の確認をします。6名登録してありますが、どうしても都合の悪い方は幹事まで連絡してください。
3. 宮崎市郡6クラブのゴルフコンペ参加者を募集しましたところ、皆さん総会等でご都合が悪いようですので、今回は参加を辞退することにしました。

### 出席報告 委員長 神宮寺 利 夫

会 員 数	16名
欠 席 者 数	3名
HC出席者数	13名
出 席 率	81.25%
欠 席 者 名	井下・斉藤・郡司

### ビジター

西都RC 長 友 正 三 君  
 " 尾 崎 公 男 君

## 会員増強フォーラム

内藤氏、明和興産の2名の方が会員候補に挙  
っております。

内藤氏には今日会長が勧誘に行く予定です。  
あとの2名の方は、もう少し待っていただき  
たいとのこと。

○ ○ ○ ○ ○ ○

『子曰く、これを愛する能く勞するなからん  
や。これに忠する能く誨うることなからん  
や。』 [憲問]

\*たとえば、わが子に対する真の愛とは、子  
どもに苦勞をさせることである。

子どもをいたわるだけでは、真の愛とは言  
えない。

人に対する真の誠実とは、教諭す(誨う  
る)ことである。

相手の言うことに誠意を示すだけでは、真  
の誠実とは言えない。

後段は、ロータリアンは相互に教え合い、  
学び合うことのできる誠実な友人であるべ  
きだと論じているとも考えられます。

『子曰く、辭(ことば)は達して已む。』

[衛靈公]

\*自分の意思を相手に知らせるためには、言  
葉によるほかないが、言葉はその意味が正  
しく相手に通じればよいのであって、なに  
も美辭や過剰な表現を使う必要はない。  
簡単明瞭な言葉こそ大切である。

これは、国会答弁の各大臣に与えるべき名  
訓であると思われ。

しかし、実際問題としては、あまり簡潔過  
ぎても味気ありませんので、鯨舌になら  
ない程度の話術を心得ることも必要です。

新聞を読む時に、世界各地の正確な地図と地  
名辞典それに地理の本を手元に置いて読まれる  
ことをお勧めする。

どこかの地名が出てくれば、その位置を地図  
で確かめ、地名辞典の記述を読み、それ以上の  
特別な内容は地理の本を読んで調べるのである。  
このような読書法は大変有益である。

はじめは時間がかかるように見えるが、実行  
しているうちに必ず豊かな成果が得られる

誰も、未知の場所、未知の物を見るのは楽  
しみなものである。

地理的な知識を増やしていくことは、実際に  
旅をするのに劣らず愉快なことではなからうか。

口数が少ないことは、往々にして知恵のある  
証拠のように言われている。

しかし、私は、むしろそのような人はもの  
を考えていないせいではないかと思うことがま  
まある。

この点で私と同じ意見を持つある医師は、書  
物から得たものであれ、自らが考え出したもの  
であれ、思想は頭の中で膨張作用を起こす、そ  
れはペンあるいは舌を用いて外に表現すること  
によって解放してやるしかない、と述べている。

常に小さなノートと鉛筆をポケットに入れて  
持ち歩き、何か興味のある出来事があれば、な  
るべく早くそれをノートの右頁にメモし、それ  
と同時に、または暫く経ってから左頁に自分の  
感想を書き込むのも効果的な勉強法である。

この方法を利用して、本や新聞からの抜き書  
きをして置くのもよいことである。

読書する時には必ずペンか鉛筆を持ち、何か  
感想があれば、用意した手帳にメモするという  
人もある。

(W. A. オールコット)